



2023年12月13日

報道関係 各位

地域社会と連携しながら継続的に環境美化に取り組む全国の小・中学校を表彰

「第24回 環境美化教育優良校等表彰事業」 最優秀校4校ほか決定

【最優秀校】

| | | |
|---------|------|--|
| 文部科学大臣賞 | 鹿児島県 | 屋久島町立 ^{かながだけ} 金岳小中学校 |
| 農林水産大臣賞 | 青森県 | 鱒ヶ沢町立 ^{あじがさわ} 舞戸 ^{まいと} 小学校 |
| 環境大臣賞 | 京都府 | 舞鶴市立大浦小学校 |
| 協会会長賞 | 徳島県 | 松 ^{まつしば} 茂町立長原小学校 |

清涼飲料・ビールなど飲料業界6団体で構成する、公益社団法人食品容器環境美化協会（略称：食環協、会長：那須 俊一）は、本年度の「環境美化教育優良校等表彰事業」において、都道府県より推薦を受けた全国の小・中学校等の中から最優秀校4校、優秀校6校、優良校28校を選定し、表彰いたします。

この表彰事業は、独創的な環境美化教育に継続的かつ熱心に取り組み、地域社会と連携しながら「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践することにより、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校を選出し表彰するものです。

最優秀校4校は、都道府県より推薦された中から審査委員会による厳正な審査を経て、「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「協会会長賞」にそれぞれ決定いたしました。

今回の最優秀校の中でもとりわけ特色のある活動を実践しているのが、漂着ごみのたまり場となっている海岸を、島民と共に清掃し、励む口永良部島にある鹿児島県屋久島町立金岳小中学校です。魅力的な島にしたいという島民の切実な願いを受け止めた児童生徒は、海洋ごみの現状を県内外に向けて広く発信しています。島の多様な自然を調査しに訪れる大学講師や大学生の指導を受けて、専門的な知識を学び、どうしたら豊かな島の自然を未来につなぐことができるか、自らの問題として捉え課題解決を目指す「屋久島型ESD」に取り組んでいます。そこでの学びや気付きは2022年度、屋久島で開催された「世界遺産学習全国サミット」で発表され、反響を呼びました。島出身の児童生徒と山海留學生が共に学ぶ同校の特色を生かし、多様な意見を出し合いながら行動に移す姿は、島民の心を捉え、環境意識向上にも結び付いていることが高く評価されました。

最優秀校に決定した他の3校においても、地域の環境や地場産業を守るために自分たちができることは何かを考え、児童が先頭に立って海岸の清掃活動を行い、町の自然や歴史、文化を継いでいこうという姿勢が際立っていました。

今年は、当協会が設立して50周年という節目の年に当たります。設立当初は、空き缶の散乱が大きな社会問題になっていましたが、半世紀が経過した現在は、海洋ごみという新たな問題がクローズアップされていま





す。そうした状況下、24 回目を迎える今回も、児童生徒が主体となって住民と共に取り組む漂着ごみの回収をはじめ、さまざまな美化活動に励む推薦校がそろいました。

表彰式は 2024 年 1 月 26 日 (金)、浅草の下町かいわいや東京スカイツリーを一望する「浅草ビューホテル」(東京都台東区) にて最優秀校 4 校を招いて開催いたします。

式典では、各受賞校の活動の様子をインタビュー映像やスライドで紹介しながら、生き生きと取り組む児童・生徒の前向きな姿や教師の思い、サポートする地域住民の熱意をお伝えしてまいります。



公益社団法人食品容器環境美化協会は、1973 年に設立されて以来 50 年の間、飲料容器の散乱防止とリサイクル推進の啓発を中心とした環境美化の推進に努めてまいりました。日本の環境が美しくなることを目的として、「環境教育の支援」「ポイ捨て防止の啓発」ならびに「アダプト・プログラムの推進」などの事業を展開しています。

「環境美化教育優良校等の表彰」は、「環境美化教育の促進」および「地域の環境美化の啓発」を目的に 2000 年度から開始し、本年度が 24 回目となります。

環境教育への取り組みが年々重要になる中で、本年度も全国の都道府県から、独創的な環境美化教育に熱心に取り組む、校内だけでなく地域社会と連携して環境美化に大きく貢献する活動の実践に努めている小・中学校が多数推薦されました。これら各校の活動内容を、審査委員会において厳正に審査した結果、このたび 4 校が最優秀校、6 校が優秀校、28 校が優良校として選定され、表彰の運びとなったものです。

■ 本年度の各都道府県からの推薦状況

第 24 回は、環境美化につながる散乱防止活動またはリサイクル推進活動を継続している小学校・中学校から都道府県が 1 校を推薦する方式

| | |
|-------------|----|
| | 合計 |
| 推薦があった都道府県数 | 38 |
| 推薦校数 | 38 |

■ 本年度審査結果

審査委員会による審査の結果、受賞校を以下の通り決定

| | |
|------|------|
| | 受賞校数 |
| 最優秀校 | 4 |
| 優秀校 | 6 |
| 優良校 | 28 |





公益社団法人食品容器環境美化協会 (略称・食環協)

The Beverage Industry Environment Beautification Association (Shokkankyo)

最優秀校に決定した4校の活動概要およびその他各賞の受賞校は以下の通りです。

■最優秀校の活動概要 (詳細はP7以降参照)

| 環境美化につながる散乱防止活動またはリサイクル推進活動 | |
|-----------------------------|--|
| 文部科学大臣賞 | <p>鹿^{かながたけ}児島県 屋久島町立金岳小中学校</p> <p>屋久島の北西約12kmに位置する口永良部島。島全域が屋久島国立公園に指定されている豊かな環境の下、同校では小中併設校の特色を生かしながら、島独自の「ESD教育」を展開している。島民のほとんどが参加する西之浜清掃活動に全児童生徒が協働で取り組む傍ら、小学生の提案で独自に海岸清掃を実施している。回収した漂着ごみの分別を通じ、環境保全意識が高まった児童生徒は、昨年度、海洋ごみ問題をテーマにしたポスターを作成し、県内の学校や施設などへ掲示を依頼。同時に、屋久島で開催された世界遺産学習全国サミットでは、漂着ごみ問題を自らの課題として捉え、回収プラごみで作った作品を展示し、学んだことを発表した。その後、島の現状を伝えたいという思いから、島民に向けても発信。「口永良部島の魅力をこれからも残していきたい」—グローバルな視野で、豊かな島の自然を未来に継ごうとする児童生徒の取り組みが、島民の心を動かしている。</p> |
| 農林水産大臣賞 | <p>青^{あじがさわ}森県 鱒ヶ沢^{まいと}町立舞戸小学校</p> <p>白神山地や日本海が見晴らせる恵まれた環境にある同校では、「未来に残そう青い海」をスローガンに掲げた保全活動が盛んだ。その一つ、「海洋環境保全学習」は、学校の近くにある「鱒ヶ沢海水浴場」や「日本海拠点館あじがさわ」周辺の清掃活動。青森海上保安部の指導の下、海洋ごみの種類や排出量を調査し、漂着ルートについて学んでいるのが最大の特徴である。地域の環境保全への関心が高まった児童は、町の財産である文化遺産を活用した「鱒ヶ沢町小中一貫ふるさと学習」にも積極的に取り組む。鱒ヶ沢町の学芸員を講師に迎え、津軽藩発祥の地や北前船貿易の歴史について学びを深めながら、ふるさとへの誇りを育む。また、農家の協力を得て、地域特産物であるアスパラガスやリンゴの収穫を体験する「食に関する学習」を展開。山や川の自然が守られることが海の環境保全にもつながることを6年間にわたり実体験し、日頃から地域美化につなげようとする態度が着実に養われている。</p> |
| 環境大臣賞 | <p>京都府 舞鶴市立大浦小学校</p> <p>美しい海に囲まれた若狭湾国定公園を校区に持つ同校では、地域特性を生かした美化活動が盛んに行われている。その取り組みを担う総合的な学習の時間を「大浦未来学」と名付け、10年以上前から実践しているのが住民と行う海岸の「クリーン作戦」。児童が自ら住民らに参加を呼びかけることで、年々参加者数が増加している。ペットボトルやマイクロプラスチックが海岸に散乱している現状に児童は着目、観光協会などの指導を得て、回収活動にも励む。回収したマイクロプラスチックは、児童がアクセサリなどに変えて住民に配布しながら、環境問題の意識啓発に努めている。また、昨年度は、回収したペットボトルを使って楽器を製作、未来学コンサートを開催し、住民らに披露した。こうした児童の姿に触発された住民も一緒にステージに立ち、地域の持続可能性について発表するなど、大浦未来学での学びを児童が発信することで、地域社会への波及効果が生まれている。</p> |
| 協会会長賞 | <p>徳^{まつしげ}島県 松茂町立長原小学校</p> <p>学校の近くに海岸がある立地を生かし、長原漁協や松茂町役場と連携しながら、海岸や長原漁港周辺の清掃に取り組む。2022年からは、「スーパーとくしまGXスクール」指定校として、SDGsの理念を盛り込んだ学習を展開。海岸清掃後に、回収したごみの重さを量り、記録をまとめながら分別している。その過程で、児童は、清掃活動を通して地域の環境問題へとつなげ、自分事として捉えるようになった。また、学びの成果を表現しようと、回収したごみを使って、想像力を駆使し、魚や動物などの作品を製作する「ごみアート」に挑戦。さらに、ごみアートを発展させて、講師の指導でゴミから楽器を作り、最後はみんなでセッションを開催した。こうした一連の取り組みは、町のイベント「マツシゲート学園祭」で発表展示し、ごみを捨てずに再利用することの大切さを広く発信。長年、漁協と連携して行うヒラメやカレイの放流は、地域産業の維持につながる取り組みに成長している。</p> |





■その他受賞校:

<優秀校> 6校

新潟県 新潟市立岡方第一小学校
愛知県 田原市立泉小学校
高知県 高知市立高知特別支援学校

富山県 高岡市立太田小学校
山口県 上関町立上関中学校・上関小学校
熊本県 南関町立南関第二小学校

<優良校> 28校

宮城県 石巻市立湊中学校
山形県 天童市立成生小学校
茨城県 桜川市立桃山学園
群馬県 桐生市立菱小学校
東京都 稲城市立稲城第四中学校
石川県 能美市立辰口中学校
長野県 諏訪市立城南小学校
静岡県 三島市立錦田中学校
滋賀県 東近江市立朝桜中学校
兵庫県 神戸市立高津橋小学校
島根県 安来市立第一中学校
愛媛県 松野町立松野中学校
佐賀県 佐賀市立中川副小学校
大分県 大分市立植田東中学校

秋田県 三種町立山本中学校
福島県 南相馬市立鹿島中学校
栃木県 真岡市立物部小学校・物部中学校
千葉県 市川市立宮田小学校
神奈川県 湘南白百合学園小学校
山梨県 大月市立猿橋中学校
岐阜県 養老町立上多度小学校
三重県 四日市市立内部中学校
大阪府 寝屋川市第一中学校区
和歌山県 田辺市立田辺第三小学校
岡山県 吉備中央町立下竹荘小学校
福岡県 古賀市立小野小学校
長崎県 佐世保市立宇久小学校・宇久中学校
宮崎県 宮崎市立本郷小学校

■表彰授与

●最優秀校4校の表彰式は、下記にて行います。

- 2024年1月26日(金) 15:30~17:10 (受付 14:00~)
- 浅草ビューホテル 3階「祥雲の間」
東京都台東区西浅草 3-17-1 電話 03-3847-1111
<http://www.viewhotels.co.jp/asakusa/> *つくばエクスプレス「浅草駅」直結
- 懇談会 17:30~19:00 28階「ベルヴェデーレ」

●優秀校ならびに優良校については、各地にて、食環協地方連絡会議員が相談の上、各受賞校にて表彰式を開催する予定です。





環境美化教育優良校等表彰事業の概要

- 主 催：公益社団法人 食品容器環境美化協会
- 後 援：文部科学省、農林水産省、環境省
- 表彰の対象：環境美化教育に独創的・継続的かつ熱心に取り組み、「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校、およびこれに準ずる小・中学生の団体（以下「小・中学校」）
- 表 彰：
 - 最優秀校 文部科学大臣賞 1校
 - 最優秀校 農林水産大臣賞 1校
 - 最優秀校 環境大臣賞 1校
 - 最優秀校 協会会長賞 1校
 - ◇ 賞状と副賞を贈呈
 - ◇ 上記の他、「優秀校」「優良校」に対し、協会会長賞として賞状と副賞を贈呈
- 推薦・審査：都道府県の環境整備主管部局、または教育主管部局が推薦する小・中学校を審査委員会で審査
- 審査委員：

| | | |
|---------|--------|---|
| [審査委員長] | 小澤 紀美子 | 東京学芸大学名誉教授 公益社団法人 こども環境学会 理事 |
| [審査委員] | 小川 晃範 | 公益財団法人 日本環境協会 専務理事 |
| | 國分 重隆 | 全国小中学校環境教育研究会 顧問 東京都教職員研修センター 研修部 授業力向上課 教授 |
| | 小島 あずさ | 一般社団法人 JEAN 事務局長・副代表理事 |
| | 長塚 真行 | 公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会 業務執行理事 企画広報部長 |
| | 岡部 容子 | 公益社団法人 食品容器環境美化協会 企画委員 日本コカ・コーラ 株式会社 広報・渉外サステナビリティ推進本部 渉外部 部長 |
| | 槇林 靖典 | 公益社団法人食品容器環境美化協会 企画委員 大塚製薬株式会社 総務部 環境推進室 室長 |

(敬称略)





公益社団法人食品容器環境美化協会の概要

■ 沿革

- 1973年（昭和48年） 任意団体「食品容器環境美化協議会」として発足
- 1982年（昭和57年） 社団法人「食品容器環境美化協会」（農林水産大臣設立認可）
体制整備を図り、事業活動を強化するため公益法人化
- 2011年（平成23年） 公益社団法人「食品容器環境美化協会」（内閣府認可）
公益法人制度の改革に伴い、内閣総理大臣から認定を受け、
「公益社団法人」として再発足

■ 主な活動：

- 新しいまち美化手法「アダプト・プログラム」の普及と推進活動
- 小・中学校でのパソコン学習支援サイト「まち美化キッズ」の運営、教育者向け「環境美化学習のガイド」の制作提供等の次世代への環境教育支援 <https://www.kankyobika.or.jp/kids/>
- 市民団体等による環境美化活動への支援
- 「ポイ捨て防止」啓発活動
- 散乱ごみ対策の調査・研究 等

■ 構成団体：

- 一般社団法人 全国清涼飲料連合会 <http://www.i-sda.or.jp/>
清涼飲料水製造・販売事業者及びその関連事業者、ならびにその事業発展に貢献する事業者等からなる社団法人
- 一般社団法人 全国トマト工業会 <http://www.japan-tomato.or.jp/>
トマト及びびんじん等の加工製造に関係を有する個人又は団体からなる社団法人
- 一般社団法人 日本果汁協会 <http://www.kaju-kyo.ecnet.jp/>
果汁又は果実飲料に関係を有する事業を行う者又はこれらの者をもって組織する団体等からなる社団法人
- 日本コーヒー飲料協会
コーヒー飲料メーカーなどからなる任意団体
- コカ・コーラ協会
日本コカ・コーラ社と全国のコカ・コーラボトリング社からなる任意団体
- ビール酒造組合 <https://www.brewers.or.jp/>
アサヒビール、キリンビール、サッポロビール、サントリー、オリオンビールのビール5社による特別認可法人

■ 本件に関するお問い合わせ先 ■

公益社団法人食品容器環境美化協会（食環協）担当：佐藤

〒108-0023 東京都港区芝浦 2-15-16 田町K.Sビル 6階

TEL. 090-6003-4903 FAX. 03-5476-2883

ホームページ <https://www.kankyobika.or.jp/>

